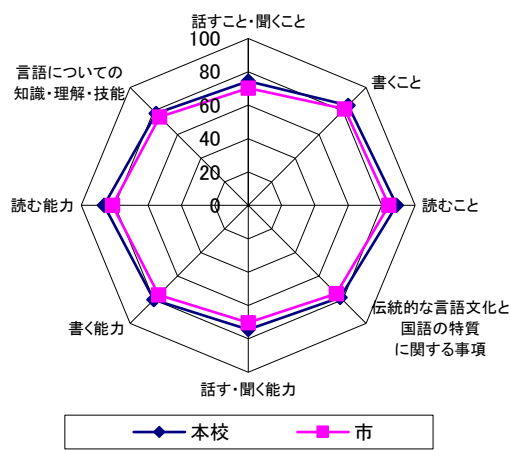


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.4	70.3	68.2
	書くこと	84.7	81.7	80.6
	読むこと	88.9	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	74.4	70.3	68.2
	書く能力	80.1	76.0	74.1
	読む能力	86.3	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	78.0	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

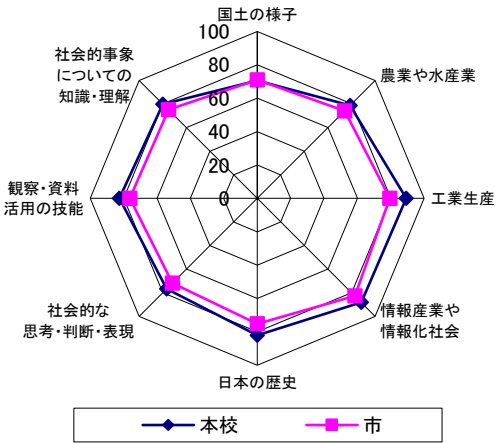
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域において、市平均を4.1%上回っており、学習内容は概ね身につけているといえる。 ○全項目で市の平均正答率を上回った。 ●「たてわりはん活動」についての話し合いをする」の設問では、それぞれ正答率が68.2%で、与えられた情報を読み取り、観点に基づいて話し合うことに課題が残る。	・計画的な話し合いができるよう、話し合いの始めに、司会者の役割を十分に理解させる。小グループでの話し合いの機会を増やし、司会者の役割等を理解させたり、しっかり相手の話を聞いたりすることで、話のテーマに合った発言ができるようにしていく。 ・朝の会や帰りの会等を活用し、司会者の意識を高めるようにしていく。
書くこと	○領域において、市平均を3%上回っており、学習内容は概ね身につけているといえる。 ○指定された長さで文章を書く設問では、市平均を8.9%上回った。 ●2段落構成で文章を書く設問の正答率は81.0%で、市の平均を0.5%下回った。 ●グラフから読み取った事実を書く設問に課題が残る。	・指定された長さで文章を書くことについては、これまでの指導の成果が表れているため、今後も継続して指導していきたい。 ・文章を書く際には、構成メモや下書きをする習慣を身につけさせたり、内容や順序を考えてから書き出したりすることができるようしていく。 ・新聞記事などを活用し、読み取った情報を踏まえて書く機会を増やし、自分で文章の加除訂正ができるように指導する。
読むこと	○領域において、市平均を4.6%上回っており、学習内容は概ね身につけているといえる。 ○物語の内容を読み取る設問では、全ての項目で、市の平均正答率を上回っており、学習内容の定着がみられる。 ○説明文の内容を読み取る設問でも、全ての項目で、市の平均正答率を上回っており、学習内容の定着がみられる。	・物語文に対して、興味を示す児童が多い。図書室の利用や読み聞かせ等を今後も継続し、物語文に身近に触れる環境をつくる。 ・物語文教材では、登場人物の心情変化について文章に即して読み取れるように指導していく。 ・段落相互の関係に目を向けた読み方の習熟を図り、読み取る力が身につくようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域において、市平均を3.2%上回っており、学習内容は概ね身につけているといえる。 ○第4学年配当漢字の正答率が95.2%で、市平均を13.9%上回った。 ●第5・6学年配当漢字を書く設問で、やや市平均を下回るものもあり、課題がみられた。 ●連体修飾語、同音異字の理解について、やや市平均を下回り、課題が残る。	・漢字や言語の習得については、個人差が大きいため、個々に応じたきめ細やかな指導を行っていく。 ・学校での学習に加え、家庭学習において、漢字ドリルを効果的に活用し、繰り返し学習の充実を図る。 ・朝の学習の時間などを利用し、既習の漢字の復習を行う。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	70.6	71.0	69.4
	農業や水産業	78.9	74.0	69.0
	工業生産	89.3	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	88.1	82.8	88.7
	日本の歴史	82.0	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	76.7	71.9	67.2
	観察・資料活用技能	82.5	76.3	70.7
	社会的な事象についての知識・理解	79.9	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

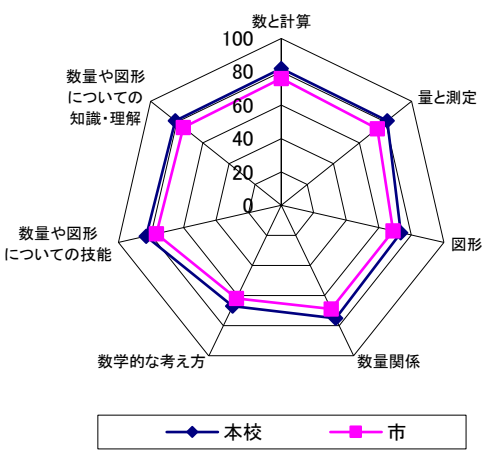
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○領域において、正答率は市平均とほぼ同等である。 ○日本の周辺の国旗についての正答率は市平均を約8%、全国平均を約10%上回っている。 ●日本の周辺の海洋名や国土の主な山脈、川、平野の名称について答える問題が課題となっている。	・授業において地図帳を活用しながら、日本の国土の主な山脈、川、平野や日本周辺の海洋名などを国土士の位置関係などを意識させながら指導することで定着を図りたい。
農業や水産業	○領域において、正答率は市平均を約5%上回っている。 ○稲作の工夫や努力について資料を読み取る、47都道府県の名称と位置の理解をもとに、日本の主な食料生産物の分布の資料を読み取る問題の正答率は90%を超えている。 ●日本が食料確保においてかかえる問題について、資料を読み取って答える問題は市平均を上回っているが、全国平均を下回っている。	・教科書や資料集をもとにそれぞれの資料から読み取れる変化や着目する点を考えながら資料を見る力を育てるようにしていく。
工業生産	○領域において、正答率は市平均を約10%上回っている。 ○どの項目においても市・全国の平均を上回っている。とくに、工業製品を工業の種類別に分類・整理する設問の正答率は、市平均を15%ほど上回っている。	・授業で学習したことを校外学習などの機会を通して実際に見て学んできたことに関連付けるようにしていく。
情報産業や情報化社会	○領域において、正答率は市平均を約5%上回っている。 ○どの項目においても市・全国の平均を上回っている。とくに、医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことに関して資料を読み取って考える設問の正答率は、市平均を7.5%上回っている。	子どもにとって身近な道具でもある通信機器を扱うなど、これからの情報化社会を生きていく子どもたちのために、最新技術に触れながら理解を深めさせる。
日本の歴史	○領域において、正答率は市平均を約7%上回っている。 ○戦国時代以降の設問の正答率は市・全国の平均ともに上回っている。 ●室町時代以前の設問に対しては、市・全国の平均を下回るところがある。	・それぞれの時代の特色や時代背景を関連付けながら、その時代で起きた出来事や活躍した人物を整理しながら年表で確認するなど定着を図る。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.0	76.1	73.5
	量と測定	81.2	73.6	70.1
	図形	73.5	68.8	66.6
	数量関係	75.1	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	67.1	61.8	54.9
	数量や図形□についての技能	83.0	76.7	73.2
	数量や図形□についての知識・理解	81.2	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

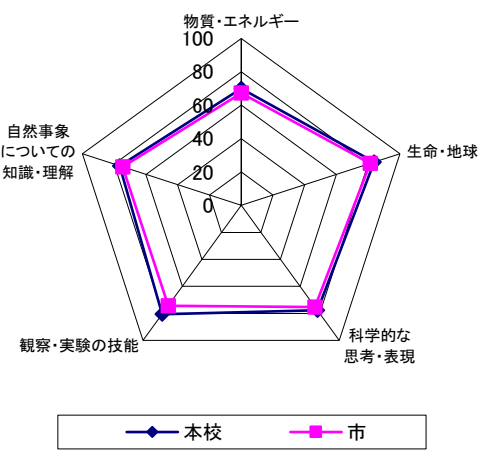
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の領域において、全ての設問に対して市平均を上回り、領域全体でも5.9%上回った。 ○小数のわり算・かけ算、分数のたし算、分数のわり算においては、正答率が90%を超え、努力の跡が見られた。 ●分数のわり算の意味を理解する設問では、市の正答率を上回ったものの、正答率が66.7%で、課題と考えられる。	・プリントやドリル等の計算問題を繰り返し練習する。通分においては方法を確認し、分母は最小公倍数を用いてできるように習熟を図る。 ・分数のわり算の意味理解では、線分図や面積図により説明する活動を取り入れてきたが、再度復習し一層の深化を図る。
量と測定	○量と測定の領域において、全ての設問に対して市平均を上回り、領域全体でも7.6%、数と計算の領域以上に上回った。 ○道のりと時間から時速を求める式を選択する設問や平均を求める設問は、正答率が90%を超え、定着が図られた。 ●面積と人数の割合を求め、どのグループが混んでいるかを考察する設問は、市平均を上回ったものの、正答率は58.3%で課題が見られる。	・割り算の意味を十分に理解させることに努める。とくに、単位量あたりの大きさを用いる問題では、出された答え(商)がどのような意味をもち、最終的に混み具合はどうか判断するまでの一連の思考が促されるような指導に努める。
図形	○図形の領域において、市平均を4.7%上回ったが、設問4問のうち、2問は市平均を下回った。 ○3辺の長さを使って合同な三角形を作図する設問の正答率は97.6%で、ほぼ定着が図られたと言える。 ●六角形の内角の和を求める式を選択する設問は、正答率が45.2%で、市平均を6.9%下回った。	・三角形から始まり、角を1つずつ増やしながら内角の和がどのように増えていくのかを表に表すなどして帰納的に考える活動で復習を行う。合わせて、n角形の内角の和がどのような数式で表されるかを考え、多角形の内角の和に対する理解を深める。
数量関係	○数量関係の領域において、市平均を6.2%上回った。 ○文字を使って2つの数量の関係を式に表したり、比例の関係を式に表したりする設問は、正答率が90%を超え、定着が見られる。 ○答えが整数になる理由を説明したり、長さの比を使ってコースの長さを求めたりする記述式の問題は、市平均を10%上回った。 ●反比例の表に数を当てはめたり、「もとにする量×x倍」の式が求めているものを見つけたりする設問は、市平均を僅かに下回り、課題が見られる。	・解答ができて、問題文で求められている条件が、全部満たされているか確認するように促す。教師の解説は児童が理解できるように明確にする。初期は簡易なものを扱い、段階的に難易度を上げていくよう配慮する。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	67.3	64.4
	生命・地球	83.8	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	77.7	75.3	72.6
	観察・実験の技能	80.6	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	76.5	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域として、正答率は市平均を2.7%上回っている。 ○6年「物の燃え方」に関する設問の正答率は、全国平均、市平均を10%以上上回っている。 ○5年「ふりがなが1往復する時間とふれはばの関係」の設問は、市平均を8%程上回っている。 ●5年「ミョウバンの水溶液の重さを求める」「ミョウバンの水溶液から析出したミョウバンをとり出す」という設問の正答率が、市平均を8%程下回った。	・十分な観察・実験の時間をとったり、練習する時間を設けたりして、一人一人に確実な定着を図るようにする。 ・授業の終末に、友達同士で伝えあう場を設け、わかったことを共有するようにする。 ・「水よう液の性質」の学習を進める際には、5年生の学習内容である「溶ける量には限界がある」「水の温度や量、溶かすものによって溶ける量に違いがあること」「性質を利用して溶けているものを取り出せること」などを「わくわく理科プラス」を活用して確認し、基本的な科学知識として生かせるようにする。
生命・地球	○領域として、正答率は市平均を2.5%上回っている。 ○6年「植物のつくりとはたらき」では、「葉にでんぷんがあるかどうかを調べる方法」の設問などで、市の平均正答率を8～23%と大きく上回っている。 ○6年「月の周期がおおよそ1ヶ月である」という設問の正答率は、市の平均正答率を8.9%上回っている。 ●5年「母親がつくる卵と父親がつくる精子が結びついたものを受精卵とよぶ」という設問の正答率が市平均を7.6%下回るなど「ヒトのたんじょう」の学習内容の理解が十分でない。 ●6年「消化された養分は主に小腸で吸収される」という設問の正答率は、市平均を8%下回った。	・学習したことをもとに、筋道を立てて説明することができるようになるなど、思考力・表現力を育てるようにする。 ・「ヒトや動物の体」の単元の学習は、資料などによる調べ学習が多くなるので、児童の関心・意欲に対応できるように、資料の種類や数量を揃える工夫をしていく。 ・「ヒトや動物の体」の学習前に、メダカとヒトの受精卵の育ちの共通点や相違点について確認し、受精卵の成長に必要な養分の取り入れ方に違いがあることと共通することを想起させるようにする。